

証券市場新聞

1 第142号

日経平均株価

2万2270円38銭

▲78円34銭(前日比)

TOPIX

1697.53

▲10.38(前日比)

2018

8/20

月曜日

発行元 ココ・パートナーズ株式会社

〒542-0081 大阪市中央区南船場3-7-27 NLC心齋橋ビル6F

TEL 06-6105-1904 FAX 06-7635-7861

marketpress.jp



総裁選後の政策運営に関心

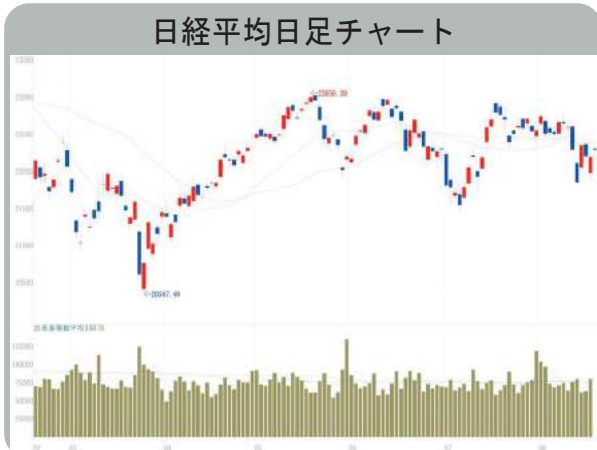
安倍3選でも消費増税など難題山積



国会議事堂

森友問題など政権を揺るがす様々な問題が起きたものの、支持率急低下には至らず、国内外の投資家は安倍政権継続をほぼ織り込んだ状況になっている。自民党は今年3月に総裁任期を「連続2期6年」から「連続3期9年」に延長する方針を正式決定しており、今回の総裁選で3選を果たせば首相在任期間が2019年11月には戦前の桂太郎首相の2886日を抜いて歴代1位に踊り出る。これまでにアベノミクスへの評価は賛否両論あるものの、長期安定政権が日本の評価を高め、日経平均の上昇に寄与

したことは間違いなく、安倍総裁3選なら次の関心は組閣後の政権運営と経済対策に移りそうだ。安倍総裁の続投の是非に関わらず総裁選出から首相に就任すれば、その向こう3年は難題が山積だ。その筆頭が19年10月の予定されている消費税率10%への引き上げ。増税後の消費低迷



3月決算企業の第1四半期発表が一巡し、お盆休みが明けたところで、次の国内の大きなイベントは9月に実施される自民党総裁選挙に移りそうだ。総裁選へ向けた動きは日々、様々なメディアで報じられているが、安倍晋三総裁と石破茂元幹事長の一騎打ちとなる公算が高い。政治の「世界は一寸先は闇」と言われているが、現状では、安倍総裁の3選が有力視されており、仮に想定通りとなれば、その後の新内閣の顔ぶれと経済対策を含めた政権運営に関心が移りそうだ。

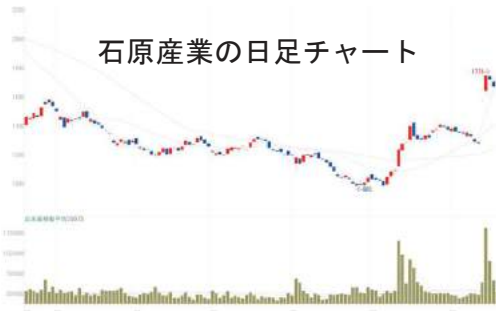
大規模な経済対策必要に

は過去の歴史が物語っており、財政再建は必要ながらも大規模な経済対策を行う必要性が指摘されている。加えて増税からほぼ1年後となる20年夏には東京オリピックが控える。海外から今後も多く観光客が訪れることを想定すれば、インバウンド需要の更なる高まりへ向けて、普及の遅れが指摘されているQRコードなどの電子決済の規格統一など、公共投資以外の施策が期待される。

石原産業ストツプ高

車載向け好調で今期上方修正

週明け13日、石原産業（4028）が急反発、ストツプ高まで買われた。19年3月期第2四半期の連結業績予想を修正、経常損益を7億円の赤字から30億円（前期比12・0%減）に引き上げるなど、利益を大幅に増額したことを好感した買いを集めた。主力の農薬が米州やアジアで販売が伸び、原料の



今週の動意銘柄

チタン鉱石価格上昇に対応した酸化チタンの輸出価格引き上げが進み、一転して黒字に浮上する。

IBJイベント不振

13日、IBJ（6071）がストツプ安。18年12月期の連結業績予想について売上高を106億2000万円から115億7000万円（前期比22・3%増）増額したが、営業利益を17億5000万円から13億8800万円から13億8800万円（同7・1%減）へ下方修正した。売上高はDiversey社の取り込みで増加するが、イベント動員数伸び悩みが利益を圧迫する。

リクルート20%営業増益

13日、リクルートホールディングス（6098）が急反発、年初来高値を更新した。19年3月期第1四半期の連結決算は、営業利益678億3900万円（前年同期比20・4%増）と大幅増益で着地した。全事業増収となり、子会社株式売却益63億円が利益水準をかき上げた。

東京網は下方修正

13日、東京製網（5981）が大幅安で年初来安値を更新。19年3月期の連結業績予想を修正、営業利益を42億円から34億円（同9・9%増）へ下方修正したことが嫌気された。中国政府の太陽光発電設備に関する支援策などの見直しに伴い、中国PV市場が軟調となった影響を受け、太陽光発電向けシリコンウエハーの切断用細物ワイヤの販売が足もとで大きく減少している。

新川赤字拡大引続き嫌気

14日、新川（6274）が前日に続いてストツプ安まで売られ、連日で年初来安値を更新した。前週末引け後に19年3月期の連

結業績を下方修正したことを引き続き嫌気。通期予想について、売上高を230億円から189億円（前期比24・2%増）、営業

損益を4億2000万円の黒字から12億7000万円の赤字（前期6億2000万円の赤字）へ一転増益から赤字拡大を見込んだ。モバイルやメモリ関連などワイヤボンドに調整の動きが

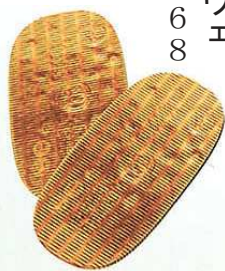
正直いいさんの株で大判小判

17日の東京市場は反発。16日のNY株が大幅高に買われ、為替が円安に振れたことで、主力株を中心に買い戻されました。米中貿易摩擦懸念の後退やトルコリラ下落の影響も限定的で、中国株が堅調に推移したこともポジティブに作用しています。8月第3週は盆休みで市場参加者が少なくなる中、心とする投機筋の先物下する状況が続きました。動き見る限りその動向は引き続き見守ります。週明けから市場参加者も増えること、全般落

落ち着き取り戻す動き

短期値幅取り戻し、4（4）が上値を伸ばしてきました。中国の規制というだけで連想売りを浴びた任天堂（7974）やスクウェア・エニックスHD（9684）などのゲーム株も9月の東京ゲームショウへ向けて戻すと見えています。

花咲翁



QBネット16%増益

14日、キュービーネットホールディングス（6571）が急伸。19年6月期の連結業績予想を発表、売上収益は204億6000万円（前期比5・8%増）、営業利益は19億円（同15・7%増）、純利益は12億2600万円（同17・7%増）と大幅な増益を見込んでいることが材料視された。グループ全体で43店舗を計画、19年2月からの値上げ効果も期待できそうだ。



36億2800万円から
 増へ、純利益を732%
 業利益を31億円から
 2・6%増へ、営業
 48500万円から
 億7000万円から

アミューズは一段高

CM収入など好調で上方修正

14日、アミューズ(43)が一段高。同日は13日の取引終了後、19年3月の期連続業績予想の修正を発表した。営業収入を483

15日、ツナグ・ソリューションズ(6551)が急落、ストップ安まで売られ上場来安値を更新した。前日引け後に発表した18年9月期第3四半期累計の連結決算は、売上高63億9000万円(前年同期比22・4%増)と大幅増益ながら、営業利益1億7400万円(同34・3%減)

ツナグソリューションズ安で最安値

と大幅減益で着地したことを嫌気した売りがかさんだ。採用代行・人材派遣サービスは引き続き好調ながら、先行投資や東証1部市場変更関連費用が収益を圧迫、通期計画の営業利益36億2000万円(前期比19・9%増)に対する3Qの進捗率は48・1%にとどまり、収益下振れが懸念された。

14日、ワイヤレスゲート(9419)がストップ安。13日の取引終了後、18年12月期の連結業績

ワイヤレスゲートSS安

(同95・0%増)へ上方修正したことが材料視された。利益率の高いCM収入、ファンクラブ収入などが全般にわたり好調に推移しており、販売管理費も貸倒引当金が減少しているという。

予想の修正を発表、売上高を120億3400万円から116億2700万円(前期比1・7%減)へ、営業利益を10億2400万円から2億1700万円(同76・5%減)へ、純利益を5億7200万円から1億9000万円(同95・7%減)へ下方修正した。新規販売業務委託契約の締結に伴う販売費用の増加などが圧迫する。



プロが教える

法人向け保険ならお任せ！

節税対策にも最適

お客様のニーズに応じた最適な商品・ベストプランを提携保険プランナーを通じてご提案します。

詳しくはココ・パートナーズ(株) アドバイザリー業務部まで。

info@marketpress.jp

Sサイエンス急伸し高値

1Q1億円の営業黒字を好感

15日、エス・サイエンス(5721)が急伸、年初来高値を更新した。19年3月期の第1四半期単体決算を発表、売上高は5億800万円(前年同期比2.3倍)、営業損益は1億円の黒字(前年同期8200万円の赤字)、最終損益は1億500万円の黒字(前期3億900万円の赤字)、最終損益2000万円の黒字(同2億7300万円の赤字)と従来

～決算情報～

イトアンド

第1四半期6.1%営業増益

自動調理器導入など作業を効率化

イトアンド(2882)の19年3月期の第1四半期(4~6月)連結決算は、売上高69億1900万円(前年同期比4.9%増)、営業利益1億8400万円(同6.1%増)、純利益8800万円(同59.3%増)と増収増益となった。大阪王将業態では自動調理機器やカット野菜導入により作業効率化を図った店舗づくりを進めたほか、ベーカリーカフェなどの出店を推進。食品事業では主力アイテムに加えて、新商品の「大阪王将羽根つきチーズ餃子」を中心に、販路拡大と既存得意先への出荷量増を図っている。

通期は売上高300億9400万円(前期比6.8%増)、営業利益8億8000万円(同14.1%増)、純利益2億8700万円(同33.5%増)と従来見通しを据え置いた。

15日、LITALE(6187)

LITALE上振れ期待

17.6%にとどまる。対する進捗率は17.6%にとどまる。常利益8億5800万円(同2.3%増)に押し上げられ、営業利益2億8700万円(同33.5%増)と従来見通しを据え置いた。

7月の訪日外国人数は前年同月比5.6%増の283万2000人と7月として

は過去最高を記録したものの、前月までの2ヶ月連続で鈍化していることが懸念。大阪北部地震などが影響しているとの見られ、鈍化が一過性かどうかを見極める必要がある。

化粧品は訪日外客鈍化

16日、資生堂(4911)やファンケル(4921)、コーセー(4922)などは前年同月比5.6%増の283万2000人と7月として

13週線が下げに転じる

先週の株式市場はトルコリラショックに見舞われました。週明けの月曜日は窓を空ける下放れでスタート。翌日は反発しましたが、大暴落の前兆とされる「下放れタスキ」が出現。震源地のトルコについては解決策が全く見えず、大統領は強硬姿勢を変えていませんので予断を許せません。

週後半は貿易交渉で中国商務次官が訪米と伝わり落ち着きを取り戻したような形ですが、今週央の交渉結果次第でまた揺れる可能性がある訳で、今週前半に期待感の高まりでリバウンドを試す場面があれば、ポジションを整理する必要がありましょう。

週末は反発となり一時的に割り込んだ52週線、26週線上を回復しましたが、13週線が下向きに転じてきており、戻しても上値は限定的ではないかと考えます。13週線の走る2万2450円近辺が限界でしょう。

日々勇太郎



リニカル増収も大幅減益

15日、リニカル(2183)が急反落、

転ばぬ先のテクニカル

トーカー
(3433)

溶射加工は計画超で推移

19年3月期の通期予想を上方修正

成。
19年3月期の通期予想も売上高で390億円から4

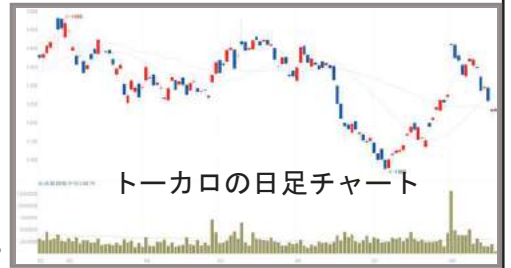
大型プラント工事も貢献

トーカー(3433)は溶射技術を中心とする表面改質技術の世界的リーディングカンパニー。耐磨耗、耐熱、腐食防止などあらゆる部品の耐久性向上、製品品質向上に同社の技術は必要不可欠で、鉄鋼などの基幹産業から航空・宇宙などの最先端分野まで幅広い分野で重要視されている。

溶射加工では半導体・FPD分野向け加工などを中心に期初計画を上回るペースで推移したに加え、スポット受注の大型プラント工事の収益貢献もあり好調に推移。これにより19年3月期の第1四半期(4~6月)連結決算は売上高111億1600万円(前年同期比35.6%増)、営業利益27億500万円(同43.0%増)、純利益18億10

10億円(前期比20.2%増)へ、営業利益で79億円から87億円(同22.4%増)へ、純利益を54億円から59億円(同22.0%増)へ上方修正している。国内子会社の日本コーティングセンターでは、自動車や建設機械部品の加工用切削工具向け受注が堅調に推移し、海外子会社についても計画を上回るペースで増収基調で推移している。

株価は7月6日の1068円を底に8月1日の1422円まで上昇、軟調地合いから押した局面は狙い場となろう。

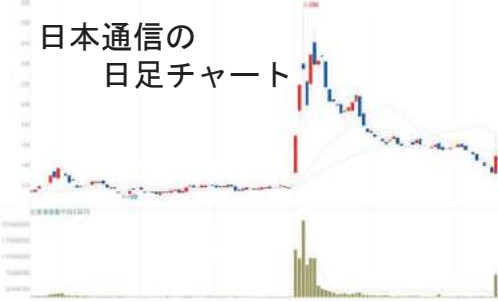


特選銘柄

0万円(同39.9%増)と大幅な増収増益を達

日本通信値上りトップ

来年7月からSIMロック解除



スマートフォンがどの通信会社でも選べるように解除もSIMロック解除を義務付けると伝えたこと、格安SIMの草分け的存在の同社にビジネスチャンスを拡大する期待が向かった。

16日、日本通信(942)が急反発、東証1部値上り率にトップした。15日、総務省が来年7月から割安なスマートフォンを購入した消費者がどの通信会社でも選べるように解除もSIMロック解除を義務付けると伝えたこと、格安SIMの草分け的存在の同社にビジネスチャンスを拡大する期待が向かった。

グ・週末17日、ツナグ(6551)が急反発。日本経済新聞が「2021年9月期をメドに連結営業利益を今期予想比7倍の25億円程度に引き上げる」と報じたこと買い手掛かり

ツナグS利益7倍報道

へ期待が高まった。ITやパートナーの採用を代行する事業が伸びる。応募者の対応などで業務自動化ソフトを導入することなどで利益率を上げるとして、収益拡大の期待が高まった。

16日、イオンファクタジー(434)が急落、一時S安まで売られ、7日ぶりに年初来安値を更新した。7月度の売上概況で既存店売上高が前年同月比3.8%減と今年度に入ってから初めて前年実績を割り込んだこと、嫌気された。遊戯機、商品、遊戯施設とも前年実績を

中古携帯電話機「エコたん」を販売する日本テレホン(9425)も一時ストック高に買われるなど人気を集めた。

イオンファクタジー一時S安

16日、新日本科学(2395)が急騰。米国の再編を発表した。米国の事業会社を分社化し、この会社を設立し、この会社を前臨床事業を移管したうえで、北米を拠点とする受託会社(CRO)であるAltaSciで、新会社の株式を有償譲渡する。

新日本科学事業再編

企業レター

学生防災士を養成

TOA

関西国際大学「グローバルスタディ」へ協力

TOA(6809)は社会貢献活動の一環として、関西国際大学が8月18日～28日までインドネシアにて実施する「グローバルスタディ」に協力している。このプログラムは防災士を目指す学生たちが、地震や火山災害が多発するインドネシア国内での学修を通して、災害時の危機管理に関する知識を深めることを目的としたもの。プログラムの一環として、同社は現地の生産拠点(PT.TOA GALVA INDUSTRIES.)に学生たちを受け入れ、日本企業とインドネシアの関わりや歴史を講

義するなど、学生たちの幅広い知識の習得に向けて協力する。

同大学では2016年9月より企業協力講座「防災入門」を開講し、安全・安心を柱とした教育研究を推進している。同社では同大学の趣旨に賛同し、初年度より同講座へ講師を派遣。減災・防災における音の重要性についての講義を行うなど、自社資源を活かした社会貢献活動を行い、学生防災士の育成に取り組んできた。同講座から輩出された学生防災士は今年3月現在、累計255名にのぼる。世界各国で災害時の危機管理の必要性が高まる中、社会の安全・安心に貢献する人材育成を目指し、今後も産学連携で取り組みを進める。

日本トリム

料理に「電解水素水」使用

低糖質和食とワイン楽しめるお店

日本トリム(6788)のグループ会社であるメデイカルフードケア・ジャパンがプロデュースする低糖質和食とワインが楽しめるお店「Japanese cuisine 結つむぎ」が

東京都・新橋に開店した。

料理には全て日本トリムの「電解水素水」を使用。また、電解水素水で育てた「還元野菜」も使用している。店内にも電解水素水サーバーを設置しており、マイボトルを持参す



2号 山水ビル2F
TEL 03・6435・4785

住所・東京都新橋1丁目16番

れば、自由に水を持ち帰ることもできる。管理栄養士による栄養計算されて作られた健康でおいしい低糖質和食を堪能したい。

エクストリームは急落

マネーゲーム終焉で利食い加速

17日、エクストリーム(6033)が一時ストップ安まで売られ、エムティジエネックス(9820)も急落。エクストリームはスマートフォンアプリ「ラングリッサー」の中国版配信発表、MTJエネックスは好業績観測を手掛かりに人氣を集め、信用規制強化も騰勢は止まず、連続ストップ高で株価はスタート時点から

17日、エクストリーム(6033)が急騰していた。ただ、全般手掛かり材料難のなか短期資金が集中する格好で、マネーゲームの様相を呈していたため、週明けから休暇をとっていた国内機関投資家が戻ってくることで、物色の流れが変わるとの見方から利益確定を急ぐ動きが加速したようだ。

ベクトル子会社上場準備

17日、ベクトル(6058)が急伸。子会社のNewsTVが東京証券取引所への新規上場の申請に向けて準備をしており、見直し買いを集めた。NewsTVはビデオリリス制作/配信を行い、次世代の動画関連会社を設立するなど事業展開を加速化している。

エクストリームの日足チャート



今週の動意銘柄

潮流

トルコ・ショックは超短期

投機筋に翻弄される個人投資家

marKet / bAnk

8月10日にトルコ・リラが急落したことをきっかけに世界の株式市場が急落。この日の日経

平均は300円急落した。しかし、トルコ問題で世界経済を大きく悪化させることもなければ、欧州の金融機関への影響が金融システム危機につながり、再び流動性危機に陥るリスクもない。

トルコについては、トランプ大統領が関税引き上げをタイミング悪くトルコ・リラの下落のなかで発言したことから、その影響もマーケットでは懸念されているが、そもそもトルコの輸出における鉄鋼やアルミの輸出は、輸出全体の6%程度だ。また、トルコの最大の輸出先は、EUで5割程度となっている。2割強が中近東で、米国向けなど全体の1割にも満たない。よって、グローバル経済への影響も限定的なので、トルコ・ショックは超短期で終わるだろう。

結局、ヘッジファンドが、トルコ問題をネタに売り投機を仕掛けているだけで、いつもと変わらない。なお、トルコ・リラの急落による外貨建借入コストの急上昇により、欧州の金融機関に影響し、その懸念から米国金融株や日本株でもメガバンクを中心に金融株が売られた。ただ、欧州の金融機関の収益にマイナスの影響を及ぼすこ

とと、それが再び金融システム懸念に繋がるといったリスクは全く別問題なのだ。

既に流動性供給が先進国の中央銀行により相当行われている上に、ストレステストやバーゼル規制による資本積み増しも行

ってきている状況なので、従来のような金融システム危機の可能性はほぼない。なので、欧州金融機関へのマイナス要因が仮に顕在化しても、それが金融システム不安を通じて他行に伝搬する可能性もない。

ヘッジファンドなど投機筋は為替や株式指数先物を利用してやりたい放題日本株式市場を荒らしている。13日に日経平均は440円急落し、翌日には498円急上昇。16日は300円急落させ2万1871円まで売られた後、36円高の2万2240円まで戻した。225先物は安値から370円も戻している。取引時間中にちょっとしたニュースでも過剰に反応する。個人投資家はくたくたである。日本株式市場を安定させるにはヘッジファンドなど投機筋を締め出すしかない。

潮流銘柄はレッグス(4286)、ビジョン(9416)、テクノプロ・ホールディング(6028)。



岡山 憲史氏（株式会社マーケットバンク代表取締役）のプロフィール

ら優勝。直近では2017年1月に始まった夕刊フジ主催の「株・1グランプリ」において優勝。1カ月間における3銘柄の合計パフォーマンスでは155%と断トツの結果。週刊現代、週刊ポスト、夕刊フジ、ネットマネー、月刊カレントなど幅広く執筆活動を行う。現在、個人投資家に投資情報サービスを行う。http://marketbank.jp

約1万人の参加者の中から一回S1グランプリにて

金融システム懸念はない



チャートから読む 騰落銘柄

新田ゼラチン(4977)



8月12日に761円まで売り叩かれた後に出来高を伴い16日に50日線を突破し、一時は850円台まで戻す。目先、6月13日に付けた885円を抜ければ5月9日の年初来高値920円が視野に入ろう。

オプティム(3694)



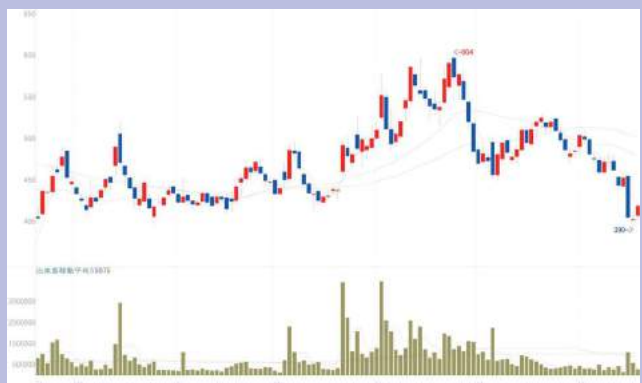
14日に4週間分の日足を包み込む長い陽線を引き、週足は下ヒゲ陽線で7陽連を達成。好業績期待に加え、信用倍率0.65倍の好取組みも株価を押し上げ、株式分割を考慮した実質最高値4338円奪回へ。

コカ・ウエスト(2579)



6月8日の4815円を高値に4400円前後の揉み合いを経て下げ加速。3000円を割れば、16年9月安値2295円までフシはない。7月の豪雨で本郷工場が被災、操業停止の影響で不安が継続。

DLE(3686)



6月25日に付けた年初来高値604円で当面の天井感。日足陰転のあと一旦戻りを試すが、25日線に跳ね返されるかたちで下落に転じる。信用買い残の整理が進まず、上場来安値338円維持へ正念場。

※チャートは日足

今週の

活躍期待銘柄



カプコン (9697)

中国販売中止の影響皆無

カプコン(9697)の株
価は8月3日に付けた最高値
3045円から2500円台
前半まで大幅に調整したが、
下げ止まる場面は絶好の買い
場到来になろう。
今回の高値からのスピード
調整は中国テンセント社の
「WeGame」を通じて発
売開始されたPC版「モンス
ターハンター・ワールド」の
発売中止が要因。発売中止は
中国政府からの要請でその理
由は不明ながら、同タイトル
はPS4版がその大半を占め
ており、海外では欧米が
主要販売地域であること
から、今回の販売中止に
よる業績への影響は皆無
だろう。

第19年3月期は
第1四半期(4
月6月)の連結
営業利益で51億
600万円(前
年同期比6.5
倍)と大幅な増
益を達成、通期
予想の営業利益
170億円(前
期比6.0%増)
は上ブレ期待が
高まる。(と)

通期収益上ブレ期待高まる



ジャムコ (7408)

経常利益は2Q計画を超過

ジャムコ(7408)は好
決算発表を受け急伸、その後
も年初来高値圏で強い動きで
一段高に進みそうだ。
7日に発表した19年3月期
第1四半期の連結決算は売上
高221億1700万円(前
年同期比25.1%増)、経常利
益16億900万円(前年同期
6900万円)で着地。主力
の航空機内装品はボーイング
777型機の後継機777X
型機向けラバトリの出荷を
開始、航空機シートと航空機
エンジン部品の生産効率改善
効果が大きく、大幅増収
で利益が急拡大した。第
2四半期計画の売上高4
03億円(同5.9%増)
に対する進捗率
は54.9%、経
常利益14億9
00万円(同25.0
3%減)を超過
している。
大幅な業績上
振れ観測に加え、
好需給も株価を
押し上げること
になり、300
0円台に乗せから
上げ足に加速が
つく局面。(さ)

777X型機向け出荷を開始

※チャートは日足

売叩かれた場面は拾え!

高野恭壽の株式情報 **これでどや!!**

株式市場新聞の名物コーナーが復活!



高野恭壽(たかのやすひさ)氏 1949年生まれ、大阪府出身。株式市場新聞大阪支社長、株式新聞社大阪本社代表を経て株式評論家として独立。講演会のほか、ラジオ大阪「タカさんの新鮮・株情報」をはじめTV、ラジオに多数出演。「株式投資30カ条」など著書も執筆。

8月第3週の東京市場は週明けから波乱の動きになりました。当初は日経平均で2万2200円割れが下値のメドとして見て

いきましたが、米国の追加制裁を決めたことでトルコリラが急落、つれて新興国通貨も下落しました。トルコ通貨のリラはFX投資の対象として4月の大幅な下落後に活発な売買がみられました。約25ポイント前後で5、7月の間で推移していましたが、それが8月から再び下落し始めて一気に16ポイントまで下落し、FX取引での損失

アンジェス高値に向け動く

今回の暴落では日中取引の終了後にナイトセッションで先物が大きく乱高下する動きも印象的でした。トルコを発端とした新興国と中国への不安、トランプ大統領の行動で不安感が高まったところで、先物を通じて投機筋が仕掛けてきたことが大幅な下落に繋がったと見ています。チャートの下に値不安が払拭されていらないと見る向きもありますが、実態以上に売り叩かれた場面は拾うべきでしょう。

に影響を与えたという見方もあります。これ以外にも様々な要因がありますが、基本的に米国がトルコの鉄鋼、アルミの関税をこれまでの倍に引き上げる制裁措置によって、リラの下落が止まらないことが原因でしょう。このために2万2200円割れの下値のメドも大きく割り込み、2万2000円すら維持できないところまで売られたといえるでしょう。

失が大きく膨らみました。この損金を埋めるために株式を売却する結果を招き、日経平均の下げ

測記事が掲載されていきました。この材料は当欄でも何回も紹介済みです。製造認可となれば1000円台に乗せるに止まらない、というビックな材料です。株価は戻り待ちの売りもでていますが、下落してもそれほど大きく下げずに上昇に向かうものと見ています。認可となれば今年の高値884円を抜くことがほぼ確実といえるでしょう。テックファーム(3625)も自社株買いを発表しました。今後もタイミングをみて好材料を出していくと思われ、継続することを目指したいでしょう。



高野恭壽公式ホームページ
高野恭壽の株式市場情報
これでどや!!
<http://www.kabun-takano.com/>
毎日情報を配信中!

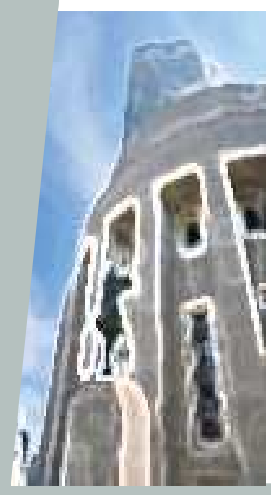
星野三太郎の 株街往来

～ひと昔と違う ボールパーク～

この1カ月は偶然ながら取材やクライアントからの招待などでプロ野球の試合に出掛けることが多かった。タイガースが本拠地とする甲子園球場とバファローズが本拠地とする京セラドーム大阪を比較すると甲子園への来場者が圧倒的に多いが、京セラドームでも数万人を集客していることは共通している。筆者が子供の頃は、チームが弱くなると空席が目立ちヤジを怒鳴る観客も多かっただけに、今の選手は良い環境でプレーをしていると思う。

チームの勝敗に関係なく集客を集めているのは、球団がダンスチームを育成してイベントを開催するなど様々な工夫をしている努力が大きい。試合以外にも楽しみがあることで、子供連れの観客も増えており、イベントによるスタッフ増で地域の雇用にも貢献している。しかし、本来ならプロでしかできない打球や打撃を見ることが醍醐味だけに、イベント化した現在の集客だけに頼ることに疑問を感じる。

ただ、試合を支える裏方の人員もひと昔に比べて増えており、地域の雇用にも貢献している。理想はチームが強くてイベントも楽しめること。これにより全てが上手く行く。



高級ラグジュアリーホテルに

～近鉄・都ホテルズと近鉄不動産～

ウェスティン都ホテル京都をリニューアル

企業レター



リニューアル後の全体イメージ

スを加え、ラグジュアリー層が満足するホテルにリニューアルする。

具体的には、平均客室面積を約50㎡に拡大し、京都・東山の自然をイメージした内装デザインとして、浴室すべてに独立した洗い場を設置し、ホテル敷地内で掘削する温泉を活用した約1000㎡のスパを新設し、華頂山に続く庭園と一体となった半露天風呂で、日本らしいくつろぎ感を楽しめるようにする。

加えて、海外から顧客にも人気の数寄屋風別館「佳水園」

では、原設計を承継しつつ客室面積を大幅に拡大し、浴室では温泉も利用することができる。本格的なフランス料理を提供するメインダイニングや、ライブリックなどを用意

え京都市街を一望できるビュッフェレストランが誕生する予定で、グランドオープンには、2020年春を目指している。

近鉄GHD

下の近鉄・都ホテルズと近鉄不動産は、ウェスティン都ホテル京都が2020年に創業130年の節目を迎えるにあたり、

近鉄グループホテルディングス（9041）傘下
京都を代表する高級ラグジュアリーホテルへの大規模リニューアルを実施すると発表した。

積み重ねてきた伝統の価値を将来に受け継ぐために、昭和を代表する建築家である村野藤吾氏のデザインの特徴である優美さや曲線美を承継するふさわしい設えやサービ



先週の日経平均は大きく上下した。月曜日は「トルコ・シヨック」で440円安と大幅下落した日経平均だが、翌日には約500円高と急反発、しかし、水曜日には150円安になり更に木曜日には一時300円安となったがその後プラス圏まで戻すといった大きく動いた週であった。急激に戻した背景には中国の王受文商務次官が8月下旬に訪米し、マルパス米事務次官と貿易摩擦を巡っ

敏腕先物ディーラー
ハチロクの裏話

落ち着き取り戻す

三点底をつけての戻り

て協議すると伝わり、上海指数が戻ったのがきっかけであるが、上海指数以上に上下する日経平均には驚かされた。お盆の週ということもあり、市場参加者が減る傾向にある事を狙ってクレディスイスなどの外資証券会社が仕掛けていたようである。

先週の日経平均は大きく上下した。月曜日は「トルコ・シヨック」で440円安と大幅下落した日経平均だが、翌日には約500円高と急反発、しかし、水曜日には150円安になり更に木曜日には一時300円安となったがその後プラス圏まで戻すといった大きく動いた週であった。急激に戻した背景には中国の王受文商務次官が8月下旬に訪米し、マルパス米事務次官と貿易摩擦を巡っ

今週のスケジュール

- ・ 17日 米7月CB景気先行総合指数 (23:00)
米7月ISM非製造業景況指数 (23:00)
- ・ 20日 米政府、2000億ドル分の対中報復関税に関する公聴会開催予定 (~23日)
- ・ 21日 20年国債入札
- ・ 22日 6月全産業活動指数 (13:30)
米7月中古住宅販売件数 (23:00)
- ・ 23日 米7月新築住宅販売件数 (23:00)
米中が相互に関税引上げ実施 (160億ドル分)
米経済シンポジウム開催、テーマは「変化する市場構造と金融政策への影響」(~25日ワイオミング州ジャクソンホール)
- ・ 24日 7月消費者物価指数 (8:30)
7月企業向けサービス価格指数 (8:50)
気象庁3カ月予報

チャートの的には13日に安値2万1820円を付け、14日には安値2万1850円、16日には2万1840円と変則的な三点底をつけた。戻りだけに、目先の底は2万1800円台と言えよう。一方、高値は15日の2万2370円。この水準は2000年移動平均線(2万2380円)でもあり、上昇基調を形成する上にはこの2000年移動平均線を抜く必要があり、抜いてくると8日

からの下げ幅970円の0.682%戻しの2万2480円が目先の戻りメドとなろう。この水準は25日移動平均線(2万2500円)もあり、厚い抵抗ラインとなろう。日経平均は大きく上下しているが、米国市場は大きなブレもなく堅調な動きとなっている。そのためVIX指数もあまり上昇していない。今週は日経平均も徐々に落ち着きを取り戻す相場展開となろう。今週は2万1900円から2万2600円を想定。本格上昇には時間がかかると思われる「突っ込み買いのふき値売り」で対応したい。

(ハチロク)

薄商いのなか短期筋のインデックス売買に指数が大きく上下動する空騒ぎのようない週間だった。個別は材料が出た銘柄を散発的に物色する程度で主役不在の状況が続く、週末には材料難のなか短期資金を集め暴騰していたエクストリームが崩落。ただ、いずれも参加者は少なく、大勢に大きな影響はなさそう。さて、週明けからは夏季休暇をとっていた多くの投資家が戻ってくる。米中貿易摩擦、トルコリラ問題がくすぶるなか、相場の流れがどう変わるか、まずは状況を見極めたい。

編集後記

【ご注意】証券市場新聞は投資の参考になる情報提供を目的としており、投資の勧誘をするものではありません。記事には業績や株価、出来事について今後の見通しを記述したものが含まれていますが、それらはあくまで予想であり、内容の正確性、信頼性、予測的的確性を保障するものではありません。当紙が掲載している情報に基づく投資で被らねたいかなる損害について、当社と情報提供者は一切の責任を負いません。投資についての決定はすべてご自身の判断、責任でお願いいたします。